

平成28年度第3回外洋常任委員会 議事録

日 時 : 平成28年12月3日(土) 16:00~16:50

場 所 : 岸体育館101号会議室

出席者 : (理事)

植松眞副会長、坂谷定生常務、平松隆、馬場益弘、中澤信夫、宇都光伸

(監事) 児玉萬平

(委員会)

外洋安全委員会委員長 大坪明

レース委員会外洋小委員会委員長 三浦信郎

ルール委員会外洋規則小委員長 大村雅一

国際委員会外洋小委員長 鈴木一行

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

JSAF事務局次長 寺澤寿一

(順不同、敬称略) 合計13名

1. 開会挨拶

植松副会長：本会議の後、忘年会があり時間があまりないが宜しくお願い致します。

2. 議事

1. 組織の現状認識と改革の必要性について

坂谷常務理事：今後活動するにあたり、組織の現状認識が必要なので組織図を確認してもらいたい。

大坪安全委員長：今回の外洋常任委員会の資料が前もって送られていない、また前回の外洋常任委員会や団体長会議の議事録も、委員長に送られていない。

担当理事が変わったのも今まで知らなかった。

出席者のみではなく、メンバーにも送って欲しい。

三浦レース小委員長：レース委員会の外洋の委員枠は7名しかない、担当理事が入ると、他の委員を外さなければならない。

レース委員会は外洋だけではないので、議事録を理事に送るのは委員会の中で問題になると思われる。

外洋として作成した議事録を理事に展開するのであれば問題ない。

植松副会長：外洋関係の問題は其々の判断でお願いしたい。

三浦レース小委員長：レース委員会としては、委員会の問題を理事に上げられるのであれば嬉しい。

植松副会長：委員会の要望で担当理事をつけた。

坂谷常務理事：各委員会が動きやすいように担当理事を決めたので宜しくお願いし

たい。

次の議題に入る前に時間が限られているので、各委員会から緊急の提案があれば提案して欲しい。

鈴木国際小委員長：ISAFの年次会議ではORCとIRCが世界選手権の開催に向けて協議を始めることになった。計測ポイントを一致させて一回の計測でどちらの証書も取得できるユニバーサルメジャメントシステムがスムーズにいけば、世界選手権の開催にこぎつけられるが、数年かかると思われる。

JSAF内部ではORCかIRCかの議論にはならない様に両方を用意している。

今回、ORCから4つのCUPをもらった。

植松副会長：レーティングに関して、現状で良いと思う。

平松理事：ジャパンカップはORCでやるのか？

坂谷常務理事：今のジャパンカップはIRCのみである。CUPはいつかORCでもジャパンカップをやるときのストックである。

児玉監事：IRCの場合はショートハンドクラスを別に作らないとできない。

今後より多くのヨットが出やすい環境を作ってくれば楽しいので、将来研究してもらいたい。

2. 外洋推進グループとしてのビジョンは

坂谷常務理事：団体ごと、また全体の会員数と登録艇数の推移を確認してもらいたい。減少傾向は明らかどころだが、今後対策を考えていきたい。

大坪安全委員長：10月のWS年次総会のレポートが来ていない。

鈴木国際小委員長：正式に公表できる段階ではないので、準備が整ったら公表する。1月頃になると思う。

3. オープンレースの定義と統一化

坂谷常務理事：オープンレースの定義が決まっていないので考えてもらいたい。

4. 特別加盟団体との関係の考え方と関係構築について

坂谷常務理事：難しいが考えてもらいたい。

5. その他

平松理事：来年のジャパンカップについて9月中旬に関東4団体で会合を開き、開催場所はシーボニアが良いとの結論になった。

シーボニアYCの協力が得られることとなり、リビエラから見積もりをとったところ500万円～600万円であった。

開催時期について、リビエラからお盆の時期は無理との回答があり、熱海が候補として挙がった。

植松副会長：熱海でも500万円位掛かると思う。また台風時の問題もあるので皆

から意見を聞いて1月下旬に結論を出す。

鈴木外洋事務局長：本日の理事会で J24 クラスが表彰対象となり承認されたが、クルーも含めてチームの全員が表彰されることになった。

今回、理事会の承認は得られたが、外洋は過去にクルー全員を表彰対象にはしていなかった。

総務委員会から今後の外洋における表彰対象の範囲を外洋団体で検討して、来年の表彰から実施したいとの要請があったので1月までに検討してもらいたい。

10月の団体長会議で報告した、外洋の艇登録に関するソフトの追加変更の見積書が届いた。合計で48万円となっている。この費用については外洋で負担することで団体長会議で決まっている。

以上。

文責：鈴木保夫